

# 渋谷駅周辺再開発

渋谷の再開発にかける  
多くの人の思いをVRで可視化する。

渋谷は谷底を中心とした高低差がある地形にJR、東急、京王、東京メトロの6駅8線の鉄道路線が結節する場。乗降客の増加により大正時代から増改築してきた駅施設に商業施設が加わり雑然とした街並が形成されてきた。このような制約のもと、安全で快適な都市空間をめざして渋谷駅周辺の大規模再開発が始まった。

複雑で立体的な地形に多くの施設が積層する都市再開発は、その複雑さ故に効率的で確実な設計検証と、地域ステークホルダーとのスムーズな合意形成が望まれていた。

2006年のプロジェクト開始以来、パナソニックはVR技術によって長期にわたり環境設計を支援。地下動線、災害対策などの複雑な設計もリアル3D化することにより、複数案の設計検証にも用いられた。鉄道乗換の利便性など、歩行者動線の細かな検証には、等身大のイメージが把握できる立体映像装置「サイバードーム」も活用されている。再開発にあたり、渋谷の魅力を高める様々な施策が進められる中、複雑で高度な設計内容をどのように情報発信するかが課題だった。このため、渋谷駅前エリアマネジメント協議会と協働で、VRデータをもとにしたAR(拡張現実)技術を活用して情報発信。専用アプリを介してスマートフォンやタブレットにて都市計画の未来図を表示することにより、都市計画を直感的に体感することが可能になった。

渋谷駅周辺再開発は、地区ごとに施設が順次開業し、2027年まで継続する。都市設計では引き続き、設計検証や合意形成に、最新の設計データに更新されたVRが活用される予定。また情報発信では、データの自由な移動や付加といったアトラクティブな機能をARに加えるなど、より親しみやすい仕組みも検討されている。

計画実現に向けた長期間にわたる再開発の中で、VRやARなどの技術を活用した新しいソリューションが始まっている。

